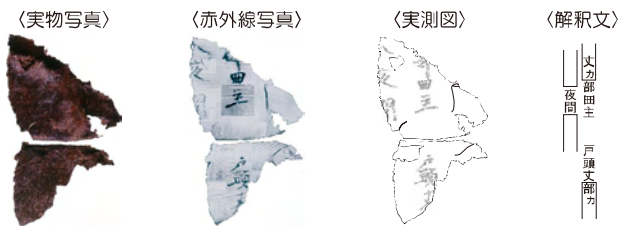


奈良～平安時代

漆が残した平安時代の文書



6号漆紙文書(高さ約15cm)。人名は「文部由主」と推定されます。



4号漆紙文書(高さ約5cm)。貞観三年は西暦861年です。

⑪山王遺跡(多賀城市)

多賀城跡の南に広がる古代の都市遺跡で、ゴミ捨て穴(土坑)から漆紙文書が出土しました。漆紙文書とは、不要となった文書を、漆を入れた容器のふたとして再利用し、紙に漆がしみこんだことによって腐らずに現代まで残ったものです。今回出土した文書には、年代や人名、「戸頭」(戸籍の筆頭者)の文字が書かれているため、役所で使われた公文書であったと考えられます。断片的ながら、平安時代の多賀城を知る貴重な資料です。

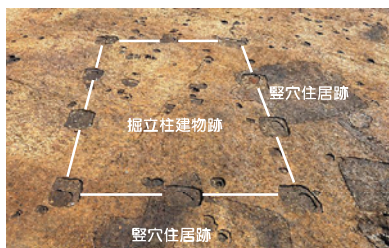


土坑からは、漆の付いた土器も出土しているため、ここに漆工場があったと考えられます(上が北)。

平安時代の集落跡を発掘



遺跡の南側の地区(南から撮影)。黄色が掘立柱建物跡、白色が竪穴住居跡。



掘立柱建物跡と竪穴住居跡



出土した書土器(大きさ約13cm)は土師器の鉢の底面に「草手」と書かれています。

⑫前戸内遺跡(蔵王町)

町の北東部にある平安時代前半(9世紀頃)の集落跡で、掘立柱建物跡23棟、竪穴住居跡18軒などが発見されました。また、当時の人が使った土器も多数出土し、そのなかには、墨で文字の書かれたものもありました。隣接する遺跡では、7～8世紀の住居跡や建物跡が多数見つっているため、古代にはこの地域に継続的に大きな集落が営まれていたと考えられます。

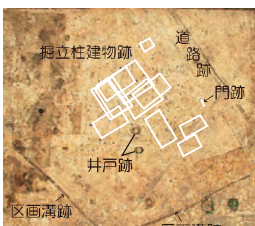
鎌倉～室町時代 発掘された中世の町並み



道路跡は幅約3.8mで、南北100m以上にわたって見つかり、その東西に屋敷跡が分布します(南東から撮影)。

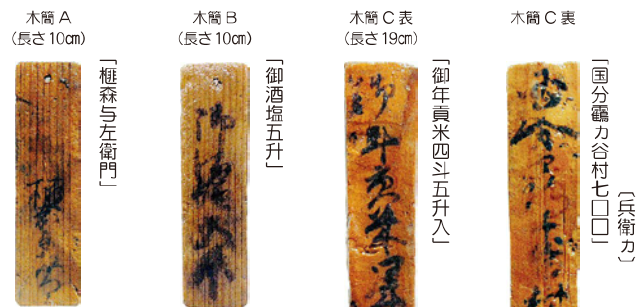
⑬北甚六原遺跡(栗原市高清水)

鎌倉時代(13～14世紀)を中心とした遺跡で、道路跡と4つの屋敷跡が発見されました。屋敷は溝で区画され、敷地内には建物や井戸などがあり、中世の町並みや屋敷内の様子を具体的に知ることができました。周辺では観音沢遺跡、仰ヶ返り地蔵前遺跡などで同時代の町並みが見つかっており、東北部の中世を知る上で注目すべき地域です。



屋敷跡1。建物は3～4回建て直されています(上が北)。

江戸時代 仙台城内にあった造酒屋敷



井戸跡から出土した木簡  
木簡Cは現在の宮城野区鶴ヶ台から納められた年貢の荷札と考えられます。

⑭国史跡 仙台城跡一造酒屋敷跡(仙台市青葉区)

伊達政宗が酒造りの本場、奈良から招いた「榎森家」の屋敷跡で、絵図では三の丸の清水門と糞門の間に描かれています。その地点を発掘したところ、6代目当主「榎森与左衛門」と書かれた木簡や、米俵・樽など酒造りにかかわる遺物が多く出土し、絵図の通り、この場所に造酒屋敷があったことがわかりました。



調査地点(北西から撮影)

平成21年度 宮城の発掘調査パネル展

宮城県教育庁文化財保護課

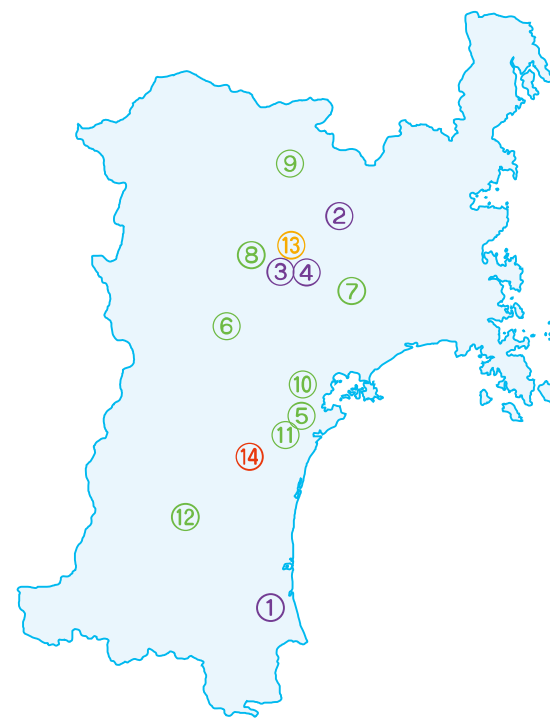
2010年3月29日(月)～4月9日(金) 県庁1階ロビーにて開催

宮城県には、旧石器時代から江戸時代まで6,100ヶ所余りの遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことは私たちの責務と考えております。

県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、開発に伴って姿を消す遺跡もあり、それに対してはやむを得ず発掘調査を実施して記録に残すことにしています。

このたび、平成21年度に行った発掘調査の中で特に話題になった遺跡と遺物をパネルで紹介することにいたしました。この機会に文化財に親しみ、文化財の保護に対してご理解を深めていただければ幸いです。

今回の展示にあたって快くご協力をいただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



時代	世代	主な出来事	パネルの遺跡
旧石器時代	約700万年前	アフリカで人類が誕生する	
	約50万年前	北京原人が洞窟で生活する	
	約3万年前	後期旧石器時代が始まる	
縄文時代	約1万2千年前	土器・弓矢が出現する	①北経塚遺跡(山元町)
	約5000年前	三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる	②青島貝塚(登米市南方) ③④北小松遺跡(大崎市庄内)
弥生時代	紀元前400頃	東北地方で米作りが始まる	
		吉野ヶ里遺跡(佐賀県)	
古墳時代	紀元後300頃	豪族が盛んに古墳を造る	
		雷神山古墳(名取市)、遠見塚古墳(仙台市)	
飛鳥時代	645	大化の改新	
奈良時代	710	平城京(奈良市)に都を移す	⑤特別史跡多賀城跡(多賀城市)
	724	多賀城が築かれる	⑥国史跡日の出山遺跡群(色麻町)
	752	東大寺の大仏が完成する	⑦戒山農土壘跡(涌谷町)
	780	伊治公峯麻呂の乱が起こる	⑧権現山遺跡(大崎市古川)
	794	平安京(京都市)に都を移す	⑨国史跡伊治城跡(栗原市築館)
	869	陸奥国大地震で多賀城が大きな被害を受ける	⑩碓氷黒跡(利府町)
中世	1167	平清盛が太政大臣となる	⑪山王遺跡(多賀城市)
	1192	源頼朝が鎌倉幕府を開く	⑫前戸内遺跡(蔵王町)
室町時代	1274・1281	文永・弘安の役(元寇)	⑬北甚六原遺跡(栗原市高清水)
	1338	足利尊氏が室町幕府を開く	
江戸時代	1467	応仁の乱がおこる	
	1590	豊臣秀吉が全国を統一する	
明治時代	1600	仙台城の築城が始まる	⑭国史跡仙台城跡一造酒屋敷跡(仙台市青葉区)
	1603	徳川家康が江戸幕府を開く	
	1868	明治維新	

縄文時代 亘理地方最古の竪穴住居跡



柱の推定復元図 発掘された竪穴住居跡

①北経塚遺跡(山元町)

約6000年前の竪穴住居跡が2軒見つかりました。一辺が3～5mの長方形で、中央に2本、壁に沿って多数の柱の穴が掘られており、住居の構造がよく分かります。また、人が住まなくなった後の住居には、たくさんの土器が捨てられていました。この時期の住居や土器の良好な資料は少なく、貴重な発見となりました。



竪穴住居跡から出土した土器

内陸の縄文貝塚



貝塚の調査状況。白く見えるのがマガイなどの貝殻です。

②青島貝塚(登米市南方)

縄文時代中期(約4000～5000年前)の貝塚や墓などが見つかりました。貝塚からは土器や石器、骨製の針や貝製の腕輪、縄文人が食べたタニシやマガイ、フナ・カモ・シカ・イノシシなどの骨が出土しました。また、墓からは縄文人の骨が良好な状態で発見されました。内陸部に1000年以上にわたって営まれた縄文人の暮らしぶりを知る重要な手がかりが得られました。



縄文人骨。手を前で組み、膝を曲げ「屈葬」されています。

協力(五十音順)  
大崎市教育委員会(権現山遺跡)、栗原市教育委員会(伊治城跡・北甚六原遺跡)、蔵王町教育委員会(前戸内遺跡)、仙台市教育委員会(仙台城跡)、多賀城市教育委員会(山王遺跡)、登米市教育委員会(青島貝塚)、宮城県多賀城跡調査研究所(多賀城跡・日の出山遺跡群)、山元町教育委員会(北経塚遺跡)、利府町教育委員会(碓氷黒跡)、涌谷町教育委員会(城山農土壘跡)

文化財保護課のホームページアドレスは、<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/index.htm>

発掘現場から 文化力  
埋蔵文化財は、国や地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない国民共有の財産であり、また、これらを解明するうえで発掘調査は必要不可欠なものです。このため、文化庁では「発掘現場から 文化力」のロゴマークを作成し、広くロゴマークを推奨し活用することで、国民や地域住民に埋蔵文化財や発掘調査に対する正しい理解と協力を促進することを目的としています。背景のカラーは発掘調査にふさわしい茶系統を使用しています。

縄文時代

縄文人の墓地



頭と膝に土器がかぶせられた人骨。右下は土器をはずした状況。

③北小松遺跡(大崎市田尻)

縄文時代の終わり頃(約2500年前)に沼地の岸辺だったところから、墓が密集して発見されました。大人や子供が膝を曲げた姿勢で埋葬され、頭や膝に土器がかぶせられたものもありました。また、同じ場所では縄文人が飼っていたイヌが丁寧に埋葬された墓もつかり、当時の葬儀を理解するうえで重要な成果となりました。

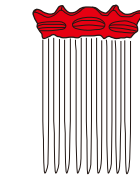


イヌの墓。3匹が折り重なるように埋葬されています。

よみがえる縄文の漆



鉢(上)と櫛(右)の出土状況  
鉢は径約20cmあり、ひっくり返った状態で出土しました。櫛は幅約7cmで、櫛の部分は残っていませんでした。



櫛の想像復元図  
縄文時代の櫛は髪飾りに使われたと考えられています。

④北小松遺跡(大崎市田尻)

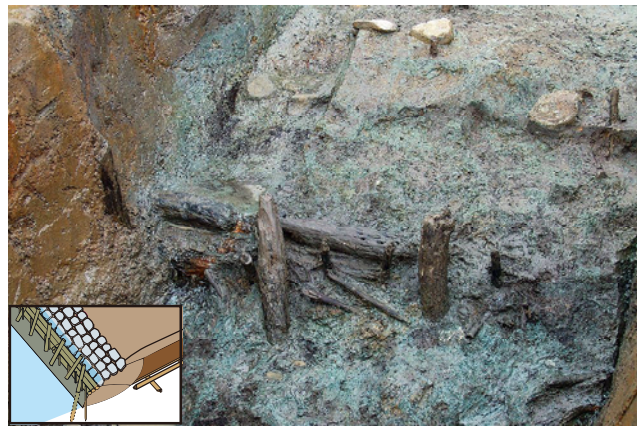
墓周辺の低湿な地層からは、土器や土偶、石棒などの呪術的道具、食料としていた木の実や動物の骨など、縄文人が生活に利用していた様々なものが出土しました。なかには、鮮やかな赤漆が塗られた木製の鉢や櫛があり、県内では数少ない貴重な発見です。



漆製品と一緒に、多量の土器が出土しました。

奈良～平安時代

多賀城内の護岸施設



推定復元図 見つかった護岸施設。上の方に敷かれた石の一部が残っています。

⑤特別史跡多賀城跡(多賀城市)

奈良・平安時代の陸奥国府の遺跡です。城内の南西部(鴻ノ池地区)で、8世紀後半～9世紀の護岸施設が発見されました。「鴻ノ池」という地名が示すように、当時この一帯は湿地だったと考えられます。護岸施設は横木や杭で土を押さえるだけでなく、石を敷き並べており、多賀城南側の見栄えを意識して造られていました。



護岸施設は外郭南門から政庁に至る道路の西側で見つかりました(南から撮影)。

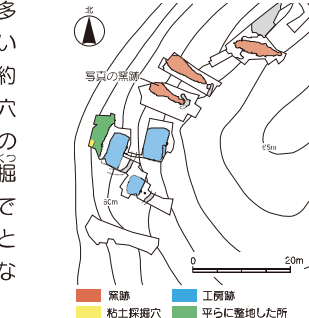
奈良時代の窯と工房



発掘した窯跡。断面を観察するため、右半分のみを発掘しました。

⑥国史跡日の出山窯跡群(色麻町)

奈良時代(8世紀)前半に、国府多賀城で使用される瓦や須恵器を焼いた窯跡です。発掘した窯跡は幅約1m、長さ約8mで、トンネル状に穴を掘って造られていました。窯跡のすぐ近くには、工房跡や粘土の採掘穴もありました。採掘から焼成までの過程がそろって見つかったことで、窯での生産の様子が明らかになりました。



奈良～平安時代

古代の防御施設(1)～土塁



土塁と溝跡



土塁の断面

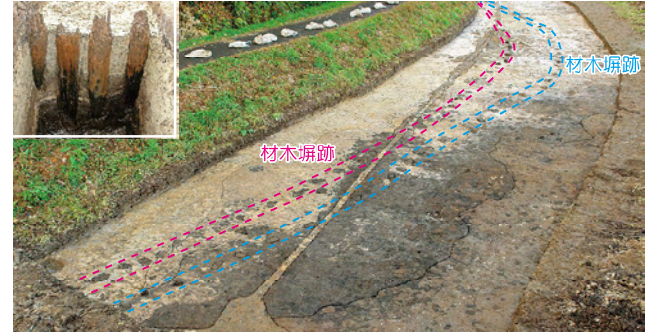


上空から見た遺跡の位置(上が北)

⑦城山裏土塁跡(涌谷町)

古代の土塁跡と溝跡が見つかりました。土塁は溝を掘った土を盛り上げて作られたもので、本来の高さは3m以上あったと推定され、現在も高まりが長さ450mにわたって残っています。隣接する八方谷遺跡にも高まりが見られるため、一体のものとなれば長さ1km以上になります。土塁に囲まれた地域には、古代の小田郡にかかわる役所跡の存在が推測されています。

古代の防御施設(2)～材木堀



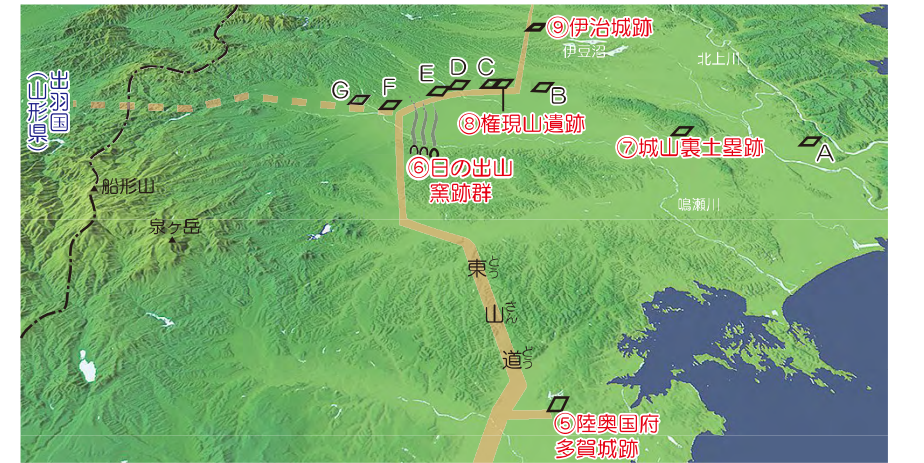
点々と残る新旧2時期の材木堀跡。左上は地中に残っていた材木。

⑧権現山遺跡(大崎市古川)

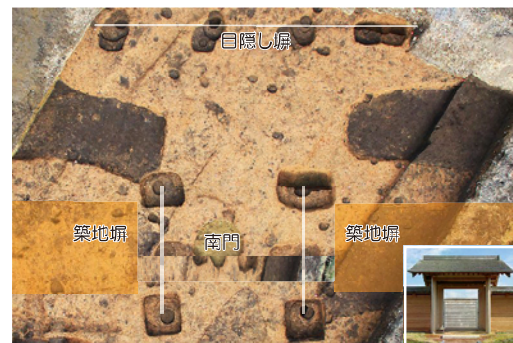
古代の役所跡と推定されている遺跡です。遺跡の周りを囲むように、丸太材を立て並べた堀跡が長さ400mにわたって発見されました。地中に残っていた材木は直径15～20cmで、先端を尖らせ、深いものは1m以上打ち込まれているため、堀の高さは3m以上あったと推定されます。大崎平野では、土塁や材木堀などの防御施設をもつ古代の遺跡が、東西に並んで見つかりました。

防御施設を持つ奈良時代の主な遺跡

- A. 桃生城跡(石巻市河北)
- B. 新田堀跡推定地(大崎市田尻)
- C. 国史跡・宮沢遺跡(大崎市古川)
- D. 小寺・杉の下遺跡(大崎市古川)
- E. 国史跡・名産館官衙遺跡(大崎市古川)
- F. 国史跡・城山裡土塁跡(涌谷町)
- G. 国史跡・東山官衙遺跡
- H. 権現山遺跡(大崎市古川)
- I. 陸奥国府多賀城跡(多賀城市)



政庁南門と道路跡の発掘



政庁南門跡と日隠し堀(上が北)。それぞれ2隻建て直されています。

⑨国史跡伊治城跡(栗原市築館)

8世紀後半に造営された城柵です。中心施設である政庁の南門は、屋根を支える柱が4本ある「四脚門」です。門の北側には政庁内部を直接見られないように「日隠し堀」が設けられていました。また、南門からは、側溝をともなった幅約14mの道路跡が南に向かって伸びており、その両側に築地堀がつくられていることがわかりました。政庁周辺の様子が徐々に明らかになっています。



南門から南に伸びる道路跡(上が北)。

火葬人骨を納めた壺



発掘された壺。丘陵の先端で1つだけ確認されました。

⑩硯沢窯跡(利府町)

8～9世紀にかけて、国府多賀城で使用される瓦や須恵器を焼いた窯跡です。窯跡群から約200m離れた地点で、9世紀初頭の墓を発見しました。須恵器の壺が逆さまに埋められており、中には火葬された人骨が入っていました。火葬されるのは役人や僧侶など特別な人に限られるため、埋葬されたのは瓦などの生産にかかわった身分の高い人物と考えられます。



須恵器の壺(長瀬窯)の頸を壊し、須恵器の坏をふたにして埋められていました。

用語解説

- ◆城柵: 辺境に対する中央政府の支配拡大のために造られた国府の出先の性格をもつ役所。国府の上級官人である国司が長として派遣された。
- ◆築地堀: 屋根をふいた土の堀